

教育委員会だより

町内の円空仏を巡る

第16回連続歴史講座「ふるさとの歴史を読み解く」の
1回目を7月5日に開催し21人が参加しました。

今回は『上ノ国町の円空
仏』と題し、上ノ国観光ガイ
ド協会の岩田靖会長が講師と
なり、バスで町内各所に点在
する円空仏を巡りました。

- 今回見学した円空仏と安置場所
- 北村地藏庵 ・ 観音坐像
 - 上ノ国観音堂 ・ 十一面観音立像
 - 旧笹浪家住宅 ・ 観音坐像
 - 光明寺(木ノ子) ・ 阿弥陀如来
 - 石崎八幡神社 ・ 観音坐像

実施に
際しては、
関係者の
ご厚意に
より普段
一般公開
していない
ものも
含め町内
に安置さ
れている



十一面観音立像の説明をする
観光ガイド協会の岩田会長(上ノ国観音堂)



光明寺の観音坐像を紹介する平田住職
(写真中央)



阿弥陀如来を観察する参加者(旧笹浪家住宅)

6体すべてを拝観することが
できました。
講座では、はじめに岩田会
長から製作者である円空の生
涯について語られた後、各所
の円空仏を拝観しました。こ
のうち上ノ国観音堂の十一面
観音立像や光明寺の観音坐像
は、手で触れることで病が治
るとの言い伝えから多くの入
に触れられて黒光りしていま
した。また、旧笹浪家住宅の
阿弥陀如来には、背面に和釘
が打ち込まれていました。
普段、あまり目にするこ
とができないことから、参加者

は間近で観察したり写真に収
めたりしていました。
参加者の一人は、「貴重な
円空仏を見ることができて感
激した」などと話していまし
た。

円空仏の作者「円空」とは

寛永9年(1632年)、美濃国(現在の岐阜県羽島市)生まれ。7歳の時に木曾川の洪水で母を亡くし、その後、浄土真宗の寺に預けられ出家。山岳修行を経て32歳の時に三体の仏像を製作し、以後元禄8年(1695年)に64歳で入定するまでに12万体の仏像の製作したと言われる。

北海道には、寛文6年(1666年)に半年ほど滞在し、町内の6体を含む40~50体を製作した。

かみのくにの 昔の建物を訪ねて

〈神社編〉

上ノ国町には、旧笹浪家住宅、上國寺本堂、上ノ国八幡宮本殿以外にもまだまだ知られていない古い建物が多く存在しています。このコーナーでは、そのような貴重な建物をみなさんにお知らせしていきます。

最初は、神社にスポットを当て、字北村に所在する砂館神社をご紹介します。



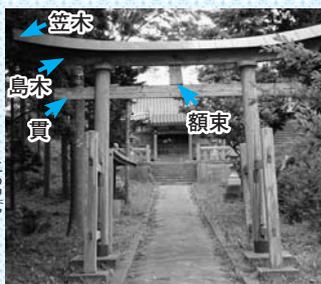
砂館神社本殿

前後に反って長く伸びる構造。

【祭神】スサノオノミコト

【鳥居形式】明神鳥居

(笠木・鳥木に反りがみられ、額束がある。貫が柱から出ている。)



木製の鳥居(奥は拝殿)

【向拝彫刻】虹梁には唐草や木鼻部分に獅子が彫られている。



正面向拝の彫刻

【創建年代】1462年
(室町時代)

【建物構造】一間社流造
(正面向拝の柱が2本で、屋根が